

# いろは



住所：台北市慶城街28號 通泰商業大樓

TEL:02-2713-8000 FAX:02-2713-0705

HP: <http://www.koryu.or.jp/nihongo/> (日本語センター)

23

2006年10月4日発行

発行：財団法人交流協会日本語センター 編集：中尾真樹・余啓夫 刷印：加城印刷有限公司

## 何が日本語を学びたいと思わせるのか

淡江大学日本語文学系助理教授 堀越和男

大学の第二外国語のクラスで初級の日本語を教えていると、時々日本語学科の学生以上にできる学生に出会うことがある。もぐりで授業を聞きに来る者もいる。そういった人たちは、熱心に日本語を勉強していることが多い。また、大学の日本語学科に入学した時には同じレベルで、同じ教師が同じ教材を使って教えたにもかかわらず、三年、四年と学年が上がるにつれ、日本語能力に差がつき、自分の意思を伝えるのに精一杯という者がいる一方で、流暢な日本語で話す者もいる。

外国語を習得する際には、学習者を取りまく社会や文化、学習するための環境、そして年齢や母語、動機等、学習者自身の背景が相互に作用し合い、その習得過程に影響を及ぼすと考えられる。台湾の若者達は、日本語を学びたいと思う人も確かに多いが、途中で諦めてしまう人も多い。また、人によって習得の速度も違う。では、どこから日本語を学ぼうという意欲が湧いてくるのか、学び続けたいと思うのか。ここでは台湾の社会的・文化的背景と学習動機との関係を中心にそれらの問題について考えてみる。

### 台湾の日本・日本文化の受容

今日、台湾では街を歩けば日本の流行歌がよく聞こえてくるし、店は日本の商品で溢れている。若者は翻訳された日本の漫画やアニメを見、日本のテレビゲームに熱中している。茶の間でもテレビをつければ日本で制作された古今のドラマや料理、旅行等のバラエティー番組が中国語の字幕付きで、あるいは吹き替えで放送され、家族で楽しむことができる。また、日本統治時代に日本語を国語として学んだ世代には、日常的に日本語を使う人も多く、その子や孫にとっても日本語は身近な外国語となっている。最近では日本への観光旅行者も人気があり、2005年の1年間に日本から台湾への年間渡航者数は112万人に上ったが、台湾から日本への渡航者数はそれ



茶席を体験する澎湖島の高校生(4ページに関係記事)

を上回る118万人を記録した。台湾の人口は約2,300万人であるから、単純に計算すると、約20人に1人が日本を訪れたことになる。このような状況は台湾の日本語学習者の動機に少なからず影響を与えるものと容易に推測できる。

### 外国語学習の動機

外国語の学習では、その動機の強さによって目標とする言語の学習に対する努力の大きさ、つまりそれにかかる時間とエネルギーの量が決まるため、結果的にその成果は動機に大きく左右されると考えられる。

動機の研究は、1980年頃から教育心理学的視点による学習者要因を中心とした研究が盛んになり、学習者の内面の意欲が彼らの行動にどうかかわるのかが注目され、「内発的動機」「外発的動機」という分類が用いられるようになった。内発的動機とは、それをする事自体が目的で何かをすること、あるいはそこから喜びや満足感が得られるような行動に関連した動機である。それを日本語学習で言うならば、「日本語の勉強が楽しい」、「日本語や日本文化に興味がある」、「日本人と交流したい」といった動機である。一方、外発的動機とは、金銭的な報酬や他者に認められること等、何らかの具体的な目的を達成する手段として行う行動に関連した動機である。例えば、日本語ができると「いい就職口が見つやすい」、

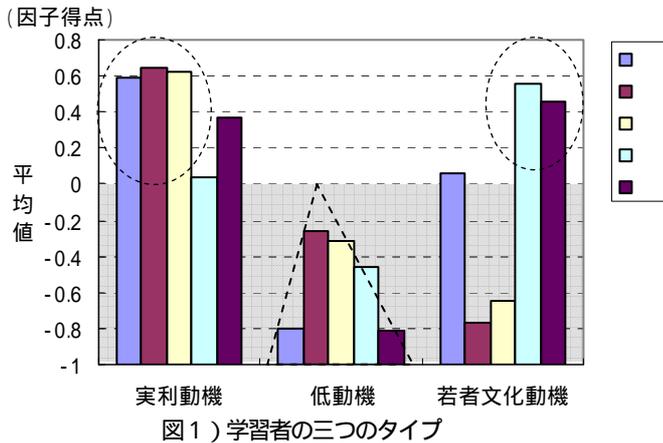


図1) 学習者の三つのタイプ

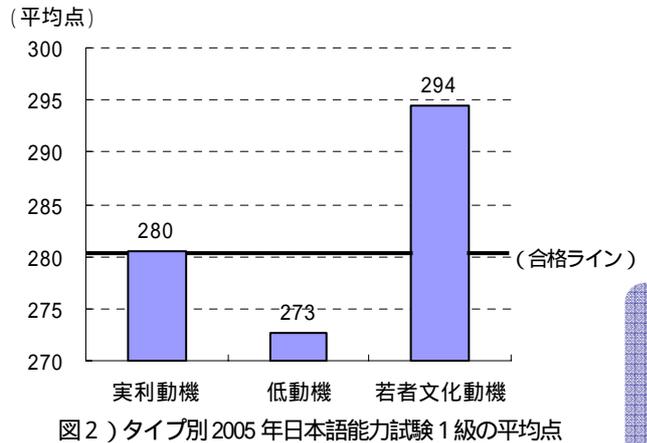


図2) タイプ別 2005年日本語能力試験1級の平均点

「給料が高い」、あるいは「優越感が感じられる」といったものが挙げられる。

「内発・外発」のどちらの動機が言語学習に強く影響を及ぼすかについては、学習者が帰属する社会や文化的状況とその言語が持つバイタリティーによって異なると考えられているが、台湾という社会で日本語を学ぶ若者にとって、どちらの動機のほうがその学習に有効なのであろうか。

### 調査と分析

#### 日本語学習の動機

台湾の大学11校の日本語学科に在籍する学生(主に4年生)で、2005年日本語能力試験1級を受験した者を対象に日本語学習に関する動機調査を実施し、男女97人分の有効回答を得た。これをもとに因子分析を行ったところ、彼らの学習動機は主に以下の五つの因子から成ることが分かった。なお、上級者を対象としたのは、その学習の継続を支えてきた動機を探るためである。

#### ・「日本人との交流」

日本人と交流し、日本の文化や習慣、日本人の生活様式を知りたいという気持ち。

#### ・「優越感の享受」

日本語は教養の一つであり、これを身につけることにより、他者からの評価を得たいという欲求。

#### ・「仕事及び意思伝達の道具」

日系の会社への就職、仕事での必要性。また、身近な日本語話者との意思伝達の道具として。

#### ・「ポップカルチャー及び歴史・文学等への関心」

日本の漫画・テレビゲーム、及び歴史・文学・科学技術・政治経済への関心。

#### ・「サブカルチャーに対する興味」

日本のポップソング・ファッション・芸能界等に対する興味と、それらの情報を得る、理解するための手段として。

(紙幅の都合上、以下、右の因子はローマ数字で示す。)

#### 学習者の三つのタイプと日本語能力

因子得点(日本語学習動機の尺度)を用いてクラスタ分析を行ったところ、学習者のタイプは図1のように三つに分かれることが分かった。左から、「実利動機」群、他の群と比較し、因子1・2・3の因子得点の平均値が相対的に高い。中央は「低動機」群、一見して全体的に得点が低い。つまり、他の群より動機が低いことを意味する。右は「若者文化動機」群、因子4・5が高い。

次に、それぞれの群に属する学習者の2005年日本語能力試験1級の平均点を算出したところ、図2の結果となった。これを見ると「若者文化動機」群の平均点が最も高いことが分かる。

#### 学習動機(因子)と日本語能力試験の関係

学習者はどんな学習動機が強ければ、日本語能力試験の結果が高いのだろうか。右の因子が能力試験の結果に与える影響を重回帰分析により調べてみたところ、因子4、つまりサブカルチャーに対する興味が強ければ強いほど能力試験の結果が有意に高くなり、またそれ以外の因子は直接試験結果に影響を及ぼさないことが分かった。

一昔前、台湾の大学の日本語学科では、日本語は多くの学生にとって将来生活の糧となるものであった。しかし、今や台湾は民主化を実現させ、自由で豊かな時代となり、彼らの日本語学習を支える動機は外発的なものから、日本人との交流や日本の若者文化への関心等、内発的なものへとその比重が移ってきている。特に日本のサブカルチャーに興味を持っている学習者ほど、日本語能力試験の結果が高いという結果には、教師として考えさせられるものがある。今の台湾の日本語学科に相応しい日本語教育とは何か。彼らの学習動機に教室活動のヒントが隠されているように思う。

## 「自分の授業を見直しませんか」

文野峯子(人間環境大学教授)

金田智子(国立国語研究所グループ長)

### 1. 授業に変化を起こすには

「学習者に積極的に発話してほしい。だから、いろいろ工夫しているけれど、どうもうまいかない。」と悩んだことはありませんか。なぜ、うまいかないのでしょうか。

Fanselow は、「私たちが行っている『つもり』のことと、『実際』に行っていることは違っている場合が多い」と指摘しています。いろいろ工夫しているつもりでも、無意識のうち教師は自身の先入観や教育観に縛られて行動をしているのです。授業に変化を起こすには、「教案(つもり)」ではなく、「実際に何が行われているかの検討(実態把握)」が必要です。そのためには、「期待と実際が一致していたかどうかを確かめる道具(特製のめがね)」が必要になります。

ここでは、Fanselow が「実態把握」を可能にするために開発した FOCUS という道具を使って、(1) 実態把握の練習、(2) 新たな視点と発想で授業を変える体験、およびその授業についての再検討という、授業を見直すサイクルについてご紹介します。

### 2. FOCUS という特製のめがね

FOCUS には5つの観点があります。その観点で、角度を変えて授業を見直すと、授業の実態が把握できるのです。5つの観点とは、1. Source/Target(誰が誰に向けて)、2. Move(何を目的に) 3. Medium(どんな手段で) 4. Use(手段をどう使って) 5. Content(どんな内容で)であり、それぞれの観点の下に、いくつかのカテゴリーがあります。

#### (1) 実態把握

交流協会の夏期研修会で実際に行ったデモ授業を再現し、FOCUS で分析してみましょう。

[例1]

1. T : みなさん、納豆、好きですか。(写真を黒板に貼る)
2. S S : はい。
3. T : アイスクリームは?(写真を黒板に貼る)
4. S 1 : 好きです。
5. T : おいしいですね。

FOCUS の第1項目(誰が誰に)および第2項目(目的)で分析してみると、例1は「教師(T) <注: FOCUS のカテゴリーを紹介するため、以下、分析に用いられるコードを用いるか括弧内に示す> が学習者(S)に質問(sol) SがTに回答

(res) TがSに反応(rea)」という典型的な教師主導のやりとりをしているというパターンが浮かびあがってきます。学習者は、教師からの働きかけには応じていますが、自分から積極的に働きかけることはしていません。これは、多くの授業に共通して見られる傾向です。また、第2項目(どう使って)で分析すると、学習者の応答は、知っていることを動員し再構成して産出したものではありません(p)。「積極的な発話」を目指すなら、日常の体験や前の人の意見などをふまえて自分で考えて言う(r) 機会を作り出さなくてはなりません。

#### (2) 新たな視点と発想で授業を変え、再検討する

積極的な発話(学習者による sol、r) が生じるよう工夫した結果、どういうやりとりになったかを示します。

[例2(例1の続き)]

6. T : («アイスクリーム」に「納豆」を重ねる)
7. S 1 : アイスクリームに納豆?
8. T : どちらも好きでしょう?
9. S 1 : おいしいものとおいしいものでも、組み合わせるとおいしいわけではないと思います。
10. S 2 : 食べ物にはそれぞれ特性がありますから。
11. S 3 : 新しい食べ物ですね。おいしいかもしれません。
12. S 4 : 先生、食べたことありますか?

「アイスクリーム」と「納豆」という意外な組み合わせを示されて、9~12 で、思わず学習者が意見を言っています。自身の持つ知識を生かしたり、直前の発話を考慮した意見(r) です。そして、学習者からの質問(sol) も現れました。

### 3. FOCUS (めがね) を使う意義

まず自身の授業についての実態把握をする、そして、その中に見出されたパターンを変える工夫をし、その結果何が起こったかを振り返る。FOCUS を用い、こういった一連の作業を行うことの意義は、今夏の研修を体験した方々の次のような言葉に表れています。

「文法の授業も、これからは学習者から働きかける形でやれるかもしれないと思うようになりました」自分が思った通りに授業を行うことではなく、新たな視点と標準で自分の授業を見直していくことができます。

みなさんも、授業を見直してみませんか。

#### [主な参考文献]

John F. Fanselow, 1987, *Breaking Rules: Generating and Exploring Alternatives in Language Teaching*, Longman.

### 第3回全国大学生日本語ディベート大会



第2回大会の様子

2007年3月10日(出場校数により10日・11日の2日開催に変更あり)全国大学生日本語ディベート大会が開催される。ディベートは、単に読み書きができるだけではなく、論理的に物事を思考し表現する能力、客観的に分析する能力など、日本語の総合的な能力が必要となり、より高度な日本語の力が試される。また、チームで勝敗を争うため、個人の力だけでなく団結力も問われることとなる。これまでの大会でも数々の熱い戦いが繰り広げられ、参加した学生や指導にあたった教師の真剣な様子が伝わるものであった。また大会を通して、同じ日本語を学ぶ学生同士が交流する良い機会にもなっている(過去のディベート大会の試合を録画したDVDは日本語センター閲覧室で視聴及び貸し出しが可能)。

今般第3回大会の論題が「台湾は小学校の教育において注音字母を廃止し漢語ピンインを採用すべきである」に決定した。交流協会では、ディベート大会の開催に併せて、10月(高雄は11月)、12月、1月の3回に渡ってディベートに関する研修会を行う予定である。大会、研修会に関する詳細は5ページを参照。また、最新の情報は当協会日本語センターホームページに随時掲載する。

### 第11回日本語教育実践講座

9月7日・8日、高雄の澄清湖青年活動中心にて第11回日本語教育実践講座が行われた。「ディベートの指導と評価」をテーマに、井上奈良彦氏(九州大学言語文化研究院言語科学部門教授)を講師に迎えた。主な参加対象は、ディベートを指導している日本語教師で、日本語教育におけるディベートの指導法、評価法などに関して理解を深めた。

今回の実践講座では初めて合宿という形式が取られ、その特色を生かし、参加者全員がディベートの試合を体験することとなった。1日目は講師による講義のあと、グループに分かれ、ディベートの試合準備に移った。翌日の試合に備え、夜を徹して討論する参加者の姿が見られた。2日目、「日本は原子力発電をやめるべきである。是か非か。」を論題として試合が行われた。各グループが肯定側、否定側、審判を一通り体験できるよう試合が進められた。最後に試合の経験をもとに、判定の基準や指導上の問題点などを講師と共に考えた。研修後、参加者からは「実際に体験することで指導上の注意点が見えてきた」「学生の気持ちがわかった」「合宿を通して先生方との交流が深まって良かった」等の声が寄せられた。

### 台北市 94 学年度公立私立高校 第二外国語「日本語」合同学習成果発表会

4月29日に、台北市私立泰北高校において公立私立高校第二外国語「日本語」合同学習成果発表会が開催された。昨年度は、日本の「四季の催事」をテーマに、各校の生徒たちによって日本語の演劇、歌、踊りなどが講堂の舞台上で発表され、教室では、四季の行事、生活習慣について学習した成果がポスターや制作物などの形で展示された。展示の中には、日本語を使ったゲームを見学者に体験してもらうなどの工夫を凝らした発表もあった。このほか、日本の学校生活の様子や教育制度を紹介する展示、陳慶彰先生(東呉大学非常勤講師)による日本文化についての講演、華道の実演なども行われた。日本から訪れた大学、日本語教育機関の関係者などの日本人来訪者も多く、大変活気にあふれた発表会であった。

### 2006年日本留学フェア

7月28日・30日に、2006年日本留学フェアが高雄(高雄工商展覽中心)・台北(世界貿易中心)で開催された。今回は53大学に加え、68日本語教育機関・専門学校が参加してブース数が100を超え、来場者も高雄1,040名(前回463名)台北3,600名(前回1,441名)と前回より大幅に増加した。会場では全体オリエンテーションとして、日本留学概要説明のほか、日本留学経験者によるパネルディスカッションなども行われ、座席が足りなくなるほどの盛況ぶりであった。

主催：交流協会高雄事務所・国立澎湖科技大学  
協力：澎湖県政府文化局・国立馬公高校

### 澎湖島「日本文化体験」プログラム

5月20日、澎湖島において、澎湖科技大学と馬公高校で日本語を学んでいる生徒たちによる「日本文化体験」プログラムが行われた。会場として、日本統治時代に建てられた澎湖県開拓館が解放され、浴衣姿の生徒連は一般の来場者とともに和室で催された茶会のほか、庭園で行われた居合や盆踊り、琴の演奏など、さまざまなイベントに参加した。そのほかにも、生徒連による浴衣コンテスト、歌や踊りなどのパフォーマンスや、仕舞(能)の鑑賞など、盛りだくさんの内容であった。日ごろ日本文化に触れる機会が少ない澎湖島の日本語学習者にとっては、貴重な体験となった。また、一般の来場者の中には日本語世代の方も多く、幅広い世代がともに楽しむことができた。

### 2006年度 台湾人日本語教師本邦研修

交流協会では、毎年夏期休暇中に台湾人日本語教師10名を日本に招聘し、約3週間の研修を行っている。今年は7月18日から8月5日にかけて、杏林大学八王子キャンパスにおいて、高等教育機関の日本語教師が研修を受けた。プログラムには、日本語教育・日本語学の第一線で活躍する講師陣による「作文指導」「コースデザイン」「通訳者養成メソッドの教育現場への応用」「日本語意味論」など、多岐にわたる内容の講義のほか、凡人社や国際交流基金の訪問、伊豆半島での一泊二日合宿などが盛り込まれている。参加者からは、優れた講師陣の講義により視野が広がったことや、日頃の自分の授業を見直すきっかけができたことを喜ぶ声が多く聞かれた。また、研修を通して日本語教師間の交流が生まれ、それぞれの教育現場における経験や問題点などについて情報交換できたことも、大きな収穫であったという感想も多かった。

### 第3回日本語特別講演会

テーマ：「日本美術の特色」  
 講師：陳階晋氏（国立故宫博物院書画処副研究員）  
 日時：10月14日（土）14:00～16:30  
 会場：交流協会台北事務所3F 日本語センター  
 概要：台湾と日本は様々な面で密接に交流してきました。しかし、台湾では日本美術について余り知られていません。美術品はその国や民族の精神を凝縮してあらわしています。古来日本人は大陸文化の強い影響を受けつつ、それを日本の自然風土に融合させて独自の風格をもった美術大系を生み出しました。日本文化をさらに深く知るためには、まず美術に触れることから始めるのも重要な道筋の一つといえるでしょう。  
 今回の講演では、日本美術史上の名品のすばらしさを感じていただくとともに、日本の美意識の歴史の変遷を知ること、日本美術の特質とその文化的背景について、さらに理解を深めていただけることを願っています。また、教育の場で日本美術を教えるための心得と経験をご来場の方々と分かち合いたいと思います。  
 本講演会は中国語で行います。

### 第4回日本語特別講演会

テーマ：「日中翻訳の現状と翻訳者養成 公文書の翻訳」  
 講師：蘇定東氏（外交部秘書処翻訳組資深日文翻訳）  
 日時：10月21日（土）15:00～17:00  
 会場：交流協会台北事務所3F 日本語センター  
 概要：言葉と文字にはパワーがあります。今回の講演では、まず台湾における翻訳市場の現状、「いい翻訳」と言われる基準、翻訳者に必要な条件などについてお話しします。続いて、日本語から中国語に翻訳するために必要な能力、特に公文書の翻訳において注意しなければならない点について実例を挙げて説明します。また、最後には実践テストを用意しています。今回の講演会を通じて、日中翻訳者の養成と日本語教育についてみなさんと考えていきたいと思ひます。  
 本講演会は中国語と日本語を交えて行います。

### 第35回中等教育機関日本語教師研修会

テーマ：「日本語が更に好きになる教室活動」  
 講師：高橋景子氏（語言訓練測驗中心講師）  
 王曉雲氏（語言訓練測驗中心日本語研究員）  
 鄭惠如氏（語言訓練測驗中心日本語研究員）  
 日時：11月11日（土）14:00～17:00  
 会場：交流協会台北事務所3F 日本語センター  
 概要：「どうしたら学習者が興味を持って教室活動に参加してくれるのか」そんな問題を抱えていらっしゃる先生方は少なくないと思います。今回の研修会では先生方に初級学習者になっていただき、学習者の視点から教室活動を行っていただきます。研修内容は主に学習者が「面白さ」と「達成感」を感じながら日本語学習ができる教室活動を、様々な教材を利用し、時間の許す限り提示していきたいと思っております。また自分のクラスでどのように活用するかも併せて考えます。  
 本研修会は中国語と日本語を交えて行ないます。

過去に開催した研修会などについては、日本語センターホームページに報告を掲載しておりますので、ご参照ください。

### 第1回ディベート特別研修会

テーマ：「ディベート講座・中級」  
 講師：橋本行平氏（TAPS総合学習塾）  
 日時：10月28日（土）14:00～16:00  
 会場：交流協会台北事務所3F 日本語センター  
 概要：これまでに行われたディベートの基礎研修、及び練習試合・大会を通して得られた蓄積に基づいて、更に発展した内容で研修を行います。最初の30分は初めて研修会に参加された方のためにディベートの基礎・三角ロジック等をおさらいし、後半では立論・質疑応答・反駁をそれぞれどのように展開するのが最も有効か、ケースアタック、論証、分析手法を具体的に提示しながら、わかりやすく解説します。また、質疑応答の効果的な仕方についても説明します。

### 第12回日本語教育実践講座

テーマ：「教室活動としての『ディベート』  
 各科目にどう取り入れるか」  
 講師：関口要氏（南台科技大学・呉鳳技術学院非常勤講師）  
 日時：11月11日（土）13:30～16:30  
 会場：文藻外語学院（高雄市三民区民族一路900号）  
 問合わせ：交流協会高雄事務所文化室 07-771-4008  
 概要：ディベートを教室活動として授業に取り入れたくても、「ディベート」や「コミュニケーション」等の科目を教えていないため、その導入を躊躇する教師も多いと思ひます。しかしそうした科目でなくても導入は十分可能です。この研修会では、言語教育の観点からディベートを個別の科目、すなわち会話・聴解・読解・作文において、それぞれの科目の学習目標に沿いつつディベートを導入する方法を紹介し、大学生・社会人の知的レベルにふさわしい思考力を養いながら言語能力を伸ばせる場をどうやって提供していくかを考えていきましょう。

### 第36回中等教育機関日本語教師研修会

テーマ：「授業を楽しくする教室活動  
 アイデアシェアリングを通じて -」  
 講師：余元君氏（龍華科技大学非常勤講師）  
 日時：12月2日（土）14:00～17:00  
 会場：交流協会台北事務所3F 日本語センター  
 概要：日本語教師にとって、日本語を習い始めた生徒にどのように日本語や日本文化を紹介していくかは大きな課題です。また、生徒が日本語を気軽に楽しく学べるうえに、日本文化をより深く理解できるようにするには、どのような方法がふさわしいかをいつも考えていると思ひます。童謡やポップソング、映画だけでなく、インターネットの情報を利用して、もっとおもしろいカリキュラムを作っていくのが私の目標です。「教科書は食べないといけぬ『主食』」だけど、体にいい『おやつ』も欠かせない。これは私が生徒にいつも言いかせていることです。つまり、教師が工夫して作る『おやつ』は、生徒が教科書以外の日本語に興味を持つきっかけとなり、日本語学習の大切なエネルギーとなるのです。  
 皆さんも日本語教育に対する情熱や自分が作った『おやつ』を他の先生に分けてみませんか。（皆さんが今まで作った教室活動アイデアで他の参加者の方とシェアできるものがありましたら、作ったプリントなどをぜひお持ちください。）

**第3回日本語特別講演会** (5ページ参照)

テーマ : 「日本美術の特色」  
日 時 : 10月14日(土) 14:00~16:30

**第4回日本語特別講演会** (5ページ参照)

テーマ : 「日中翻訳の現状と翻訳者養成 公文書の翻訳」  
日 時 : 10月21日(土) 15:00~17:00

**日本語文学会**

講演会  
日 時 : 10月21日(土) 10:00~12:00  
会 場 : 台湾YMCA 城中会所 2F  
講演者 : 吉原ゆかり氏 (筑波大学助教授)  
例会  
日 時 : 毎月第三土曜日 10:00~12:00  
会 場 : 台湾YMCA 城中会所  
問い合わせ : 02-2621-5656 内線 2958  
([http://www.geocities.jp/taiwan\\_nichigo/](http://www.geocities.jp/taiwan_nichigo/))

**第1回ディベート特別研修会** (5ページ参照)

テーマ : 「ディベート講座・中級」  
日 時 : 10月28日(土) 14:00~16:00

**第12回日本語教育実践講座** (5ページ参照)

テーマ : 「教室活動としての『ディベート』  
各科目にどう取り入れるか」  
日 時 : 11月11日(土) 13:30~16:30

**第35回中等教育機関日本語教師研修会** (5ページ参照)

テーマ : 「日本語が更に好きになる教室活動」  
日 時 : 11月11日(土) 14:00~17:00

主催 : 東呉大学

**第8回全国高校生日本語スピーチコンテスト**

日 時 : 11月4日(土) 13:00~  
会 場 : 東呉大学(外双溪校区) 伝賢堂  
問い合わせ : 東呉大学日文学系 02-2881-9471 内線 6524  
(<http://www.scu.edu.tw/japanese/>)

主催 : 高苑科技大学

**第2回台湾文化に関する全国即興スピーチコンテスト**

日 時 : 11月4日(土) 13:00~17:00  
会 場 : 高苑科技大学函資大樓 8F 国際会議室  
問い合わせ : 高苑科技大学応用外語系 07-607-7100  
(<http://www.afld.kyu.edu.tw/>)

主催 : 日本アジア航空

**日本語スピーチコンテスト**

第23回北部地区大会  
日 時 : 11月18日(土) 9:00~  
会 場 : 国賓大飯店 2F 聯誼廳  
問い合わせ : JAA台湾支社広報部 02-2776-8232~4  
第16回南部地区大会  
日 時 : 11月25日(土) 9:00~  
会 場 : 漢来大飯店 15F 會議中心  
問い合わせ : JAA高雄支店総務部 07-236-4109  
(<http://www.jaa.com.tw/>)  
\*北部大会・南部大会とも

主催 : 教育部・中央広播電台・交流協会  
共催 : 銘伝大学・高雄第一科技大学

**95学年度全国大学専科学校日本語スピーチコンテスト**

予選 (2つのエリアで実施)  
南部予選 : 11月19日(日) 高雄第一科技大学  
北部予選 : 11月26日(日) 銘伝大学(士林キャンパス)  
決勝  
日 時 : 12月10日(日)  
日本語非専攻組 9:00~  
日本語専攻組 13:30~  
会 場 : (財)中央広播電台 4F 国際庁  
問い合わせ : (財)中央広播電台 02-2885-6168 内線 722  
(<http://www.cbs.org.tw/>)

**第36回中等教育機関日本語教師研修会** (5ページ参照)

テーマ : 「授業を楽しくする教室活動  
アイデアシェアリングを通じて」  
日 時 : 12月2日(土) 14:00~17:00

**台湾日語教育学会二六**

**「日語教育與日本文化研究」国際学術研討会**

日 時 : 12月9日(土) 9:30~  
会 場 : 国立政治大学 行政大樓 7F (木柵校区)  
問い合わせ : 国立政治大学日本語文学系  
02-1939-3091 内線 62166  
(<http://140.119.172.157/main.htm>)

**台湾日本語文学会 2006年度日本語文学術検討会**

日 時 : 12月16日(土) 9:00~  
会 場 : 台湾YMCA 城中会所 2F  
問い合わせ : 淡江大学日本語文学系内 学会事務局  
02-2621-5656 内線 2958  
([http://www.geocities.jp/taiwan\\_nichigo/](http://www.geocities.jp/taiwan_nichigo/))

主催 : 交流協会・淡江大学 指導単位 : 教育部

協賛 : 日本亜細亜航空・郵船通運股份有限公司・傑士達文化事業有限公司  
國立教育廣播電台・大立伊勢丹

**第3回全国大学生日本語ディベート大会** (4ページ参照)

論 題 : 「台湾は小学校の教育において注音字母を廃止し漢語ピンインを採用すべきである」  
日 時 : 2007年3月10日(土)  
\*出場校数により10日・11日の2日開催に変更する場合もあります

**お知らせ**

「いろは」をご愛読くださりまして、ありがとうございます。  
「いろは」の発行は今年度から、春と秋の年2回となります。  
これからも台湾の日本語教育に関する情報を発信してまいります。

**『いろは』23号 目次**

- 1~2 台湾日本語教育情報源
- 3 日本語・日本語教育のキーワード
- 4 ディベート大会情報・日本語教育ニュース
- 5 研修会のお知らせ
- 6 台湾日本語教育関連情報